

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	〈馴染みの人や場との関係継続支援〉 古くからの知人をはじめ、可能なかぎり関係継続を期待するも、認知症の進行と同時に徐々に減少傾向にある。	たとえ認知症の進行があろうとも、長期記憶があることから、脳の活性化を図るべく、馴染みの人との交流を大切にする。(笑顔を引き出す)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に呼びかける。 ・運営推進会議等にて課題とする。 ・機関紙にとりあげ、広くPRする。 ・家族の方々の理解を深める。 	6か月
2	31	〈看護師との協働〉 正看護師を4月より採用しており、これまでの看護業務に支障のある課題は解消しつつある。	医師の指示により、利用者の疼痛緩和、状態把握及び健康管理をすることで、落ち着いた、安定した生活ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員との連携 ・担当医師との密な連絡体制 ・日常の健康管理 ・家族への密な報告 ・病気の早期発見 	1か月
3	49	〈日常的な外出支援〉 高齢によるADL低下及び認知症の進行により、外出支援がしづらい状況にある。	利用者自身が外出を拒む場合もあるも、促し、気分転換の意味でも、創意・工夫した形で行い、心身の健康を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々が重度化している事柄 ・短時間でも、その方に合わせた計画対応 ・車椅子、歩行器移動でも可能な外出先の設定にて外出を実施する。 	3か月
4	35	〈災害対策〉 大地震の場合は、これまでの避難訓練対策では無意味であることを実感した。今後どうあるべきかが課題である。	仮に、東日本大震災の時のような場合でも、(津波、地割れがない限り)対応できる体制づくりをする。(利用者にとって安全な方法をとる)	<ul style="list-style-type: none"> ・大地震対策の更なるマニュアル作成 ・備蓄(これまで以上の)購入 ・地域への呼びかけ強化 ・物品購入(自家発電機、反射式ストーブ他) 	3か月
5					か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。